

出来得る支援と行動の限りをもち、当たるべきと考えたことによるものです。

しかしながら誘致のハードルは、非常に高く、人口5千人の町へ総合病院を誘致することは、たいへん困難なものでした。このことは徳洲会グループ理事長への陳情のための面談機会に、長い時間を要したことなど、徳洲会グループの慎重な対応にも見てとれるところでした。

状況が一変したのは、昨年末に日高徳洲会病院から理事長面談の機会を設けるとの連絡と共に、当町への移転を前向きに検討すると



日高徳洲会病院の移転建設地に決定した字西泊津の町有地

本年1月10日の東上理事長との面談においては、氏家議長同席のうち、新冠町の日高徳洲会病院誘致に向けた熱意を伝え、その熱意に対し、理事長から「過疎地においてこそ、徳洲会病院の医療サービスを展開する必要と意義がある」との趣旨の発言の後、当町への移転を明言されました。

理事長面談からおよそ2週間後の1月25日「日高徳洲会病院 新冠移転へ」の報道は、各方面へさまざまな波紋を広げると同時に、早急な対応が求められ、特に新たな医療体制の構築は、現医療体制の見直し、即ち国保診療所の存廃の決断をしなければなりません。

小規模自治体である新冠町において総合病院が開業された時、これまで国保診療所の赤字補填分として、北海道から交付されていた国民健康保険調整交付金約1億3千万円は、交付されなくな

ります。このため、別に町が単独で補填している1億3千万円との合計額2億6千万円の財政的支出を、国保診療所の運営のために負担することとなります。更には、数年後に国保診療所本体の老朽化は限界を迎え、巨額の工事費を伴う改築



現在の新冠町立国民健康保険診療所

を進める決断に至りました。診療所の閉所に向けた取り組みを進める決断に至りました。

このことは、医師をはじめ看護師などスタッフ、そして利用者など多くの方々に影響を及ぼすことであり、説明会を早急に開催する必要があったことから、先の報道から4日後の1月29日、国保診療所職員への説明会を開催しました。説明会では私が先頭に立ち、職員の不安払しょくに努めました。閉所の時期、退職時の待遇の問題など、抱える不安や町に対する厳しいご意見を聞くに至り、当

拭されることは無く、隔たりを感じる説明会となりました。回答保留となった質問事項もあったため、3月6日、レ・コードの森自治会を対象とする説明会を再度開催し、改めて回答をいたしました。建設予定箇所である町有地に対する一部住民の現状維持の要望と町有地利活用を責務とする町の考え方の溝は、埋まることはなかったと感じています。

今回立地される企業は、総合病院であり、立地箇所は未利用の町有地です。現状の草地から近代的な医療施設への環境変化は、景観の変更を伴いますが、医療アクセスの向上と医療環境の充実であることを、今後も必要に応じ説明していく所存です。

また、全町民を対象とする説明会を3月8日に開催し、これまでの経緯、徳洲会病院との協定の概要を説明しました。参加した町民からは、町の医療サービスの向上につながるとして日高徳洲会病院の立地を喜ぶ声もありましたが、地域住民への配慮が不足しているという意見と企業誘致の経緯についての批判があり、改めて今後における丁寧な町民対応の必要性を感じているところです。



3月8日に行われた説明会の様子

進行する高齢化、日常化する感染症の脅威など、私たちの日常において、医療への依存度は高まる傾向にある中、医療体制の充実は、急を要する施策であり、実現可能な事項については、時間を置くことなく具体化すべきと私は判断してきました。

そのため私は、日高徳洲会病院の当町への移転新築の取り組みは、スピード感をもって推進し、出来る限り私の任期内に協定締結を終え、誘致に係る取り組みを完結させる決意で取り進めてきたところです。このことは徳洲会グループ東上理事長も同じ考えであり、早期の協定締結を望まれていたことから、協定に係る協議は迅速かつ

円滑に取り進めてきました。協定締結までの取り組みには、氏家議長を始め、議会の後押しが大きな推進力となってきたことは、改めて申し上げるまでも無く、感謝の念に堪えません。

協定締結は、昨日3月10日、新冠町役場会議室において、氏家議長の立ち会いのもと、新冠町と医療法人徳洲会との協定締結に至っております。協定の内容は、冒頭申し上げました新冠町企業誘致条例に基づく、新冠町による支援策と新冠町の医療福祉施策を、共に推進する旨などを定めたもので、信頼関係を強化し、持続的な協力を促進する内容となっております。今後、新冠町と日高徳洲会病院は、長きに亘って互恵的な関係を築いていくこととなります。

今、新冠町のまちづくりは転換期を迎え、大きな飛躍のチャンスの中にあると感じています。日高徳洲会病院の新冠町への移転新築は、新たなまちづくりの礎であり、これまで多くの先人たちが積み上げてきたまちづくりを、更に充実させる分岐点です。更なる飛躍のためには、まちづくりを行政と議会、そして町民の協働によって進めなければなりません。



3月10日に行われた医療法人徳洲会との協定書締結式

私には、町政の舵取りを担う時間は多く残されていませんが、築かれた礎は、次代を担う方が、必ずや豊かな実りへと導くものと確信しています。未来の町民が希望に満ち、笑顔あふれる町となることを願ってやみません。

新冠町のまちづくりが、今後ますます力強さを増し、明るく輝いて行くことを、心から祈念しております。

以上、「日高徳洲会病院移転新築に係る協定締結について」の行政報告とさせていただきます。